



第13回 最小侵襲脊椎治療学会

THE 13TH ANNUAL MEETING OF SOCIETY FOR MINIMALLY INVASIVE SPINAL TREATMENT

イブニングセミナー3

腰椎後方椎体間固定術における Expandable Cage の効用とpitfall



^{座長} 山崎 昭義 先生

新潟中央病院 院長



_{演者} 小西 定彦 先生

大阪鉄道病院 副院長 整形外科部長

2023 年 6 月 23 日(金) 16:50-17:50

第4会場

仙台国際センター 3F 白橿

本セミナーは、現地開催のみです。

日本整形外科学会教育研修講演として以下の単位が取得できます。 認定単位:日本整形外科学会単位種別(SS),日本整形外科学会必須分野(7)

共催:第13回最小侵襲脊椎治療学会/グローバスメディカル株式会社



抄録

後方椎体間固定術に使用されるExpandable cage は挿入時に椎間後方の開口部が狭くても安全に挿入でき、椎間挿入後に開大することによって椎間の高さや前弯角を獲得することが出来る。種々のタイプが発売されているが多くはケージを開大するにつれて前弯角も増大する機構のものである。一方Globus社のRISE®は前弯角 (4度、10度、15度) が一定で、それらを保ったままジャッキアップできるタイプのケージであり、あらかじめ目標とする角度を設定して使用することができるのが最大の特徴である。ケージ内に移植骨を充填するタイプではないが、ケージ周囲に十分な骨を移植することでStatic cageと比較しても遜色のない骨癒合率を得ることができている。Expandable cageの特長が生かされる場合として、① 局所前弯を獲得したい症例、② 冠状面での椎間矯正が必要とされる症例、③ 体骨折後などで終板が陥凹し椎間が広がった症例などがあげられる。

本講演では上記症例に対するRISE®の応用症例を紹介するとともにExpandable cage であるがゆえに陥りやすいPitfallやそれらを避けるための取り組みなどについても述べたいと思います。



グローバスメディカル株式会社 〒105-0021 東京都港区東新橋二丁目3番3号 ルオーゴ汐留 TEL (03)6402-3311(代表) FAX (03)6402-3312 https://www.globusmedical.com/japan/

